

竹岡広信（たけおかひろのぶ）先生（駿台・洛南高校・竹岡塾）の新しい英単語集『LEAP』（数研出版、2018年10月）が出版されました。高校生の英語学習で一番苦勞するのが英単語の暗記です。私は英語学習の8割までは、「単語の勉強」だと公言しています。従来の単語集は、単語、発音、意味、用例の構成で、どの本も似たりよったりでした。生徒は丸暗記するしかなかったんです。しかしそれでは、テストには対応できるものの、テストが終わってしまえば記憶の中からすっばりと抜け落ちていきます。卒業してしまえば、きれいさっぱりと忘却のかなたです。この本は、有効な語源だけでなく、単語暗記のためのさまざまな工夫が見て取れます。語呂合わせまで使って何とか記憶に留める工夫がなされています。



さて今回の竹岡先生の新しい単語集、一言で言うと、竹岡先生のアタマにある全てのことが詰まった「学術的な単語集」と私は感じています。英単語の暗記に役立つと思われる学術的な知識を総動員して作られた画期的な単語集です。LEAPという書名は、Learn English Vocabulary, both Active and Passive「英語の発信語彙も受信語彙も両方学ぶ」の頭文字を取ったもののようですが、同時に生徒たちが四技能の英語世界へ「飛翔」(leap) してくれるようにとの願いが込められて、新しい共通テストを念頭に置いた「四技能対応型英単語集」です。主な特長は次の通りです。

- (1) 「発信語彙」と「受信語彙」を区別したのが重要な特長です。
- (2) 各語に「CEFRレベル」を掲載して語彙難易度を明示してあることも、従来の単語集にはなかった特徴です。竹岡先生の長年の指導の成果から、敢えて取り上げられている難語も幾つか見られます。
- (3) 単語の正確なニュアンスに徹底的にこだわっています。これは、竹岡先生の学識に至る所に感じる事ができる単語集です。
- (4) 類義語の正確な記述も魅力です。使い分けのヒントが随所に見えます。
- (5) 用法への的確な指示も忘れてはなりません。間違い易い語法に注意喚起しています。
- (6) 訳語にかなりこだわって作られていることも見逃せません。これは長年の先生の経験と学識が詰まっている領域と感じました。
- (7) 丸暗記によらない単語記憶のさまざまな工夫が盛り込まれている点（「語源」だけでなく「語呂合わせ」までも）を、私は高く評価します。

一例を挙げてみましょう。term という単語は「多義語」でさまざまな意味があるので、教室で押さえるのに一苦勞しておられる先生も多いと思いますが、竹岡先生はこんな説明を挙げておられます：「(限られた) 枠」→①「(意味の枠→) 用語」②「(時間の枠→) 期間」③「(相手との関係の枠→) 間柄」④「(取り決めの枠→) 条件」こうして意味同士の関連を押さえておいてやると、生徒たちの記憶の負担はずいぶん楽になるはずです。さらにこの単語を含む頻出の熟語 on good terms with ~ 「～と良好な関係にある」(*特に「仲がよい」という訳ではない) という注記を与えておられます。*の部分が重要です。現場でも誤解している先生がたくさんおられる熟語で、私も以前詳しく取り上げたことがあります。私も授業でこれらのことに触れ、terminator (抹殺者) terminate (終わらせる) terminal (終着駅) determine (決心する) exterminate (根絶する) などへと発展していきます。「未知語」への応用につながる学習法とっていいと思います。

詳細は、私のブログ「チーム八ちゃん」(<https://teamhacchan.wordpress.com/> 12月4日付け) をご覧ください。今日竹岡先生から御礼のお電話をいただき、この単語集の製作に5年を要したとおっしゃっておられました。従来の単語集とはひと味違った、発信・受信に線引きをしたこと一つとっても画期的なことと思います。新課程に向けて、じっくり使ってみたい単語集と感じました。竹岡先生のこの単語集にかける熱い思いは、数研の小冊子『CHART NETWORK』最新号にも出ています。

八 幡 成 人